

立春（りっしゅん）



2月4日頃（2025年は2月3日）。および雨水までの期間。旧暦の正月の節。

太陽黄径315度

大寒から数えて15日目頃。

旧暦ではこの日のが1年の始めとされていたため、決まり事や季節の節目はこの日が起点になっています。八十八夜、二百十日、二百二十日も立春から数えます。

冬至と春分の真ん中で、まだまだ寒いですが、暦の上では旧冬と新春の境い目にあたり、この日から春になります。梅の花が咲き始め、徐々に暖くなり、春の始まりとなります。

立春の早朝、禅寺では、入口に「立春大吉」と書いた紙札を貼る習慣があります。厄除けとして、家の鬼門にこの紙札を貼るご家庭もあります。

「寒中見舞い」は立春の前日まで。以降は「余寒見舞い」（2月下旬頃まで）になります。

立春大吉

「立春大吉」の文字が左右対称で縁起が良く、一年間災難にあわないといわれています。

年内立春

年によっては、旧暦の正月の前に立春を迎えることがあり、これを年内立春といいます。立春が旧暦の正月（旧正月）以降に来る場合は新年立春といいます。

旧暦の元日＝立春の日ではありません。

季節の言葉

❖ 寒明の雨（かんあけのあめ）

立春を過ぎた頃に降る雨のこと。「寒明」は春の季語です。



❖ 春一番（はるいちばん）

立春から春分までの間に、初めて吹く強い南向きの風（東南東から西南西の風向で8m/s以上）のこと。

※地域によってそれぞれの呼び方もあるようです。